

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0790100143		
法人名	企業組合 飯野の里		
事業所名	グループホーム飯野の里 1F		
所在地	福島市飯野町字原田11番地の1		
自己評価作成日	平成24年10月30日	評価結果市町村受理日	平成25年6月4日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 http://www.kaigokensaku.jp/07/index.php?action_kouhyou_detail

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人福島県シルバーサービス振興会		
所在地	〒960-8043 福島県福島市中町4-20		
訪問調査日	平成24年12月3日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域に密着し、地域に愛されるグループホームを目指し、また、明るく、元気に、楽しくを合言葉に利用者様、スタッフが共に笑顔で過ごせるグループホームを目指しています。地域の皆さんとの交流も、年々密になり、本年度は、定期的に町内のボランティアグループの方々から来所して下さるようになりました。今後も、さらに、地域との連携を高め、利用者様にも、様々な楽しみ等を提供できるようにしていきたいと思います。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

1. 町内会の役員や行事への参加、職業体験活動の受入や芋煮会などの行事を通して、積極的に地域との交流を深めている。
2. 運営推進会議の委員を幅広い分野から選び、多くの意見や提言があり、それらをサービスの向上に活かされている。
3. 協力医療機関と緊密に連携し、訪問診療、緊急時の受診体制が取られており、利用者は安心して生活が出来る状況にある。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー) です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅰ.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	管理者は、毎月2度の全体ミーティング時に、職員に対して、事業所理念に基づいた意識の確認をしており、実践につなげている。	事業所内に理念を掲示し、管理者は日頃から職員に対し、理念に基づいた意識の確認をし実践につなげている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	管理者をはじめとし、職員も、地域の活動に積極的に参加し、地域と利用者様との交流が、更に活発化するように交流を深めている。町内会、商工会、ライオンズクラブ等。	町内会の役員や行事への積極的な参加、中高生の職業体験活動の受け入れ、芋煮会などを通して地域との交流を深めている。また、日常的には外出時に挨拶を交わし触れ合う機会が多く持たれている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	当ホームの芋煮会や、町内会の祭礼食事会等の場で、相互に招待しあう等して、地域の皆さんと利用者様とが食事や懇談をする機会を設け、利用者様や、認知症についての理解を深めていただいている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、事業所の取組内容や具体的な改善課題がある場合にはその課題について話し合い、会議メンバーから率直な意見をもらい、それをサービス向上に活かしている	運営推進会議と、芋煮会やその他イベントを兼ねて開催する等して、委員の皆さんから、活きたご意見をいただけるように努め、それらを実行に移している。	各分野から委員が選出されており、会議は定期的に開催されている。事業所の状況報告や芋煮会などの行事を通して、意見やアドバイスを頂きながら、サービスの向上に反映させている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	立子山・飯野地域包括支援センターと、緊密な連携を取り、相互に情報交換をする等して、協力関係を維持している。	事業所の状況や利用者の様子を定期的に報告し、介護や生保などの情報交換を行って、協力関係を築くよう取り組んでいる。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	管理者、職員共に、身体拘束の無い介護の実践についての強い意志を持ち、見守りを強化し、利用者様の事故防止、安全確保に努めている。	毎月会議の中で管理者から身体拘束をしないケアについて話されており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。また、日中は玄関の施錠はせず職員の見守りにより対応している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者、職員共に、虐待防止に努めている。特に、見落としがちな、言葉による虐待等についても、その防止の意識を高めている。			

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護についての制度的な理解について、事業所としての取り組みはしていない。管理者は成年後見人制度研修実績あり。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約締結は、事務長が担当し、内容説明については、細心の注意を払い、ご家族様からのご理解、ご納得をいただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族様のご面会時に、事務長が、診療報告を含めた近況報告の場を持ち、その際に、ご意見、ご要望をお聞きしている。そして、それらを職員に伝え、日頃の運営に反映させている。	日常生活の中で利用者の意見や要望を汲み取るよう努めている。また、家族からは事務長が面会時や近況報告の中で意見や要望を聞き、出された健康管理や服薬に対する意見等を運営に反映している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月2回のミーティング時以外にも、管理者は、随時職員から意見を聞くようにしており、それらを迅速に運営に反映させるようにしている。	管理者は日常的に職員の意見や要望を把握するよう努めている。また、会議やミーティングの中で意見を聞き、出された避難設備の改修などの提案を運営に活かしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	賞与支給、退職金共済制度の加入等、職員の待遇、福利厚生面について、代表者は常に、就業環境の改善、やりがいを感じてもらえる職場づくりに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は、職員に対し、極力外部研修へ派遣する等、教育に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	福島県高齢者グループホーム協議会等上部団体の行事参加等を通じ、情報交換に努め、サービスの質の向上に努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご入所の段階で、利用者様の目線に立ち、ご本人様のお言葉や、態度で、お好みを把握する等して、信頼関係の構築に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	お問い合わせ～ご見学～実態調査～ご契約という一連の流れの中で、ご家族様とは、相互に、話し忘れ、聞き忘れの無いよう、懇談を重ね、信頼関係の構築に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	その時、ご本人様に、最もふさわしいサービス提供が可能になるよう、関係機関等との協議を重ね、しかるべき対応をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	洗濯ものたたみ、消耗資材の準備、食器かたづけ、レクリエーション等利用者様と職員との共同での作業に努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様との懇談の機会以外にも、いつでも、気軽に相談ごとをしていただけるよう、事務長が専用電話を携帯し、努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族様、ご友人等へ面会の促進をお願いしている。また、ご本人のご希望の場所、店舗等に行っていただける機会が多くなるよう、ご家族様とも協議をしている。	家族や知人の面会の協力を要請している。また、家族の協力を得て外出できるよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーションや、日頃の会話を通じて、ご利用者様が孤立することのないように努め、また、利用者様同士の楽しみ等が共有できるきっかけを、絶えず探すようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご退所後も、ご家族様と、良好な関係が維持できていることが多い。ご退所後のお暮らし等についても、お聞かせいただけている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご利用者様ご本人の、日頃の言動から、ご希望・ご意向の把握に努め、職員全体で情報を共有し、ご本人本位となるよう、実践に活かしている。	日常生活の会話の中から、本人の意向や希望を把握し「様子伺」に記録している。また、意思疎通の困難な利用者には、日頃の行動や仕草、表情から本人本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時及び、その後も、ご本人様についての情報を収集し、その把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の健康チェック、レクリエーション、入浴、排泄、食事摂取、睡眠、言動等からご本人様の状況の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人やご家族のご要望等を細かく聴取し、ケアマネージャーと担当者で協議をし、現状に合った介護計画づくりに努めている。	担当職員が中心となってモニタリング、カンファレンスを実施し、利用者と家族の意向を踏まえた介護計画を作成している。また、状態変化に即した計画の見直しも行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ご利用者様のご様子、介護計画の実践状況等を日々、記録し、毎日の申し送りや、定期ミーティング等で情報を共有し、有効な介護の実践に努め、介護計画の見直しに反映させている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日々の様々なアクシデント等にも柔軟に対応できる体制を整えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源の活用については、積極的な姿勢で臨んでいる。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご利用者様の、身体的・精神的負担軽減のための、2週に1度の訪問診療、検査時等の通院について、ご家族様との緊密な連絡・連携を取りつつ行っている。	本人、家族の希望する医療機関を通院することができる。付き添いは職員と家族が状況に応じて行い、受診結果の情報を共有している。また、身体的、精神的負担の軽減から訪問診療や緊急時にいつでも受診できる体制が取られている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	福島中央病院院長とのホットラインによる緊密な連携を保ち、細目な相談に努め、適切な受診を受けられるための支援に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	365日・24時間体制で、福島中央病院との緊密な連携体制を維持し、迅速な対応に努め、ご家族様にも、安心を提供できるよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご入所ご契約時に、当ホームの指針を、ご家族様にご説明し、ご同意をいただき、福島中央病院との協力により対応している。	利用契約時に事業所の方針を家族に理解して頂いている。状況変化時にも本人、家族と話し合い方針を共有し取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時には、全ての職員が冷静・迅速に対応できるよう、日頃より研鑽し、実践に活かしており、ご家族様にも、ご安心をいただいている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の防災訓練を、町内会の協力をえつつ、実施している。また、全体ミーティング等で、折に触れて、議題にしている。	火災のみを想定し、消防署の指導を受け、地域住民も参加した訓練は年2回実施している。非常用備蓄も常備されている。	火災、地震、水害などの昼夜を問わない避難訓練をより多く実施するとともに、日常の防火点検を行って欲しい。

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	管理者は、スタッフに、我々は介護サービス業者であるという意識を忘れさせないための指導を心がけ、日頃より、利用者様の人格・尊厳を重視した声掛けや対応に努めている。	管理者がミーティング時に人格を尊重し、プライバシーを損ねない対応を徹底するよう指導しており、職員の言葉に人格に配慮した対応が見られる。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人様のお言葉を聞き逃さないように心掛け、ご本人様の思いの実験、自己決定の実現ができるよう支援している。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の業務上の都合等を優先させることなく、あくまでも、利用者様のご意向や、ペースを優先し、ご利用者様それぞれの、自分らしいお暮しのための支援をしている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご利用者様それぞれのご希望等をお聞きし、化粧等を含めた身だしなみや、おしゃれの支援をしている。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事に関連した作業を利用者とともに職員が行い、一緒に食事を味わいながら利用者にとって食事が楽しいものになるような支援を行っている	食事の味はもちろんであるが、見た目のおいしさ、楽しく食べる環境の創出等、食事を楽しんでいただくための支援をしている。	毎日の会話の中で希望の献立を把握し反映させたり、ジャガイモの皮むき、もやしの芽摘み、テーブル拭きなど出来る作業を行い、一緒に楽しく会話しながら食事をしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	福島中央病院藤田院長にも相談しながら、利用者様一人一人の食事量、栄養バランス、水分摂取量等、サプリ摂取等の支援をしている。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、利用者様それぞれにふさわしい口腔ケアに努めている。			

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者様の排泄サイクルを把握し、排泄の失敗が減少し、自立に近づけるための支援を行っている。	排泄チェックを行い、タイミングを把握し失敗しないよう声かけしている。腹部マッサージ、水分調整などに努め自立に向けた支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	福島中央病院藤田院長のご指導の下、便秘状態にならないための食材の選択、服薬管理等の支援を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	利用者様の健康状態を把握しつつ、楽しい入浴をしていただくための支援をしている。	週2回、入浴剤を使用し乾燥肌防止に配慮しながらタイミングに配慮するなど楽しく入浴できるよう支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夕食後に、利用者様それぞれが安心してお休みいただける環境づくりをしつつ、夜間良眠のための支援をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	福島中央病院藤田院長のご指導の下、先生と細目に連絡を取り合いながら、適切な服薬をしていただくための支援をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者様それぞれが、楽しい生活を送れるよう、裁縫、紙細工、塗り絵、合唱、ボールゲーム等種々の提案、支援に努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	利用者様のご希望を聞きつつ、町内行事、花見、食事会等の支援をしている。また、利用者様とご家族様の外出については、積極的な支援を心がけている。	地域の祭り、花火大会などに参加したり、花見、食事会などの支援や家族と出かけられるよう支援しているが、希望にそって戸外に出かけられる機会が少ない。	利用者のその日の希望に沿って屋外に出かける機会を多くするよう支援して欲しい。

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ほとんどの利用者様は現金を所持なさっていないが、買い物に同行していただく等して、買い物の楽しみ等は体感していただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者様、ご家族様のご希望をお聞きし、支援に努めている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	職員と利用者様とで、季節ごとに、共用空間の装飾をし、温かみのある雰囲気づくりをしている。	観葉植物、利用者の共同作品、行事写真などで居心地良く季節感を感じられる共用空間になっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者様は、共用空間で日中を過ごされるのがほとんどであるため、それぞれの場所で、楽しく過ごしていただくための支援をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室、或いは泊まりの部屋は、プライバシーを大切にし本人や家族と相談しながら、居心地よく、安心して過ごせる環境整備の配慮がされている(グループホームの場合)利用者一人ひとりの居室について、馴染みの物を活かしてその人らしく暮らせる部屋となるよう配慮されている(小規模多機能の場合)宿泊用の部屋について、自宅とのギャップを感じさせない工夫等の取組をしている	利用者様の居室については、プライバシー保護を優先に、温度・湿度管理、衛生管理に努め、過ごしやすい空間づくりをしている。また、家具・調度品についても、利用者様のご希望で、ご家族様と連絡を取り、整備に努めている。	居室はその人らしく暮らせるよう本人、家族と話し合い、馴染みのベッド、ソファ、作品など思い思いの馴染みのものを活かし、プライバシーを大切に部屋づくりを支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部は、安全面を優先に、利用者様の自立度が低下しない環境づくりに努めている。		